

今日から使える!

Classroom English

Lesson 3

活動の指示の表現①

外国語科の先行実施が始まって今年度も半分以上が過ぎましたが、英語の授業は順調でしょうか。このコーナーで紹介した表現もたくさん使っていただいていたらうれしいです。

クラスルーム・イングリッシュは日常会話とは違い、授業を円滑に進めるために調整した英語で、「短く、簡潔に、分かりやすく」が基本です。活動指示も、動詞で始まる3~5語程度の命令文で十分ですので、指示を出す先生方にとって覚えやすいだけでなく、英語を初めて習う児童も理解しやすいでしょう。

活動を進めるための指示には、do, make, look, watchといった基本動詞を多く使います。これから英語を学び直したい方は、授業を英語で進めるために、まずこうした基本動詞の復習から始めることをおすすめします。

今回は、授業でペアやグループになって活動をするときに役立つ表現を紹介します。少しずつ、確実に使える表現を増やしていきましょう。

Make pairs.

ペアになりましょう。

ペア活動をするときに、最初に使える表現です。「~を作る」という意味の動詞makeは、「輪になる(Make a circle.)」や「列になる(Make a line.)」などにも使えます。日本語にもカタカナでペアという言葉がありますが、英語では、pairは数えられる名詞です。a pair(一つのペア)またはpairs(複数のペア)となるので、授業でのペア作りの際は、必ず複数を表す「s」をつけましょう。文頭に“Please”を付けて、“Please make pairs.”と言うこともできます。

Make groups of three.

3人組を作りましょう。

3人以上のグループにするときにもmakeが使えます。“a group of数字”の数字の部分に、グループ内の人数を入れます。「メイク グループス オブスリー」のように、母音で区切った読み方をせずに、Makeの最後のkの音と、groupsの最初のgの音は重ねるように、そしてgroupsの最後のsの音と、次のofのoの音を重ねるように読んでみましょう。グループ内の人数は関係なく、グループを三つ作りたときは、“Make three groups.”のように、グループの前に数字を入れます。

菅井幸子 すがい さちこ

株式会社イーオン 東京本社法人部 学校教育課 教務コーディネーター

岩手県生まれ。大学卒業後、イーオン入社。

2007年より教務課トレーナーとしてイーオンスクールの教師育成に従事。15年に学校教育課の立ち上げに参加し、全国の教育委員会や学校で、教員向けの英語指導法や英語力アップの研修などを行っている。

Put your desks together.

机を合わせましょう。

ペアやグループでの活動で、机も一緒に動かすときには、この表現を使ってみましょう。このputは「置く」という意味で、“Put your pencil on the desk.”(机に鉛筆を置きなさい)のようにも使えますが、広く「どこかに何かを配置する」という意味があります。今回の表現は「一緒に」という意味のtogetherを伴って「机を合わせる」という指示になります。実際に机を動かしてみせながら、“Like this.”(このようにして)と付け足すと、よりわかりやすいでしょう。

Switch roles.

役割を交替しましょう。

ペア活動には、インタビューなど役割が決まっているものがありますが、役割を両方も練習させたいときに使える表現です。このswitchは「電気のスイッチ」という名詞だけでなく、「交替する」を意味する動詞でもあります。「役割」という意味のrolesが言いづらいときには、“Please switch.”だけでもOKです。日本語の「スイッチ」とは音が違って、sの音の後に、wの音を出せるように唇を前に突き出すようにしましょう。サンドイッチ(sandwich)も同じ音になります。

Find a new partner.

新しいパートナーを見つけてください。

ペアでの活動は、隣どうしや前後の相手との活動だけで終わらないように、この表現を使って、どンドンやり取りに慣れてもらうように促したいものです。「見つける・探す」という意味のfindの後ろにaが続くので、「ファインダ」のような音になります。冠詞のaが抜けないように気をつけて指示を出してください。partnerという単語には、rの音が二つありますが、partの部分は口を大きめに開けて、nerはそれよりは小さく閉じて言うと自然です。

★ここがポイント!!

クラスルーム・イングリッシュを使うときは、ジェスチャーをつけて、指示を聞いている児童が「見たら分かる」ようにしましょう。今回の表現であれば、pairs(2人)やgroups of three(3人)が分かるように指を折って数字を見せたり、switchの意味がわかるように両手を交差させる動きを見せたり、といった具合です。これにより、英語の指示に不慣れた児童も何をすることが分かりやすくなりますし、先生方も体を使うことで表現を覚えやすくなりますよ。